

《担当者名》柳生 一自

【概要】

子どもとの関係作り、心理学的評価を学び、子ども自身や家族に実践的にアプローチする方法を習得する。

【学修目標】

子どもとの関係作り、心理学的評価を習得する。

子どもや親に対するアプローチの仕方、関わり方を習得する。

子どもを取り巻く社会環境を学び、多職種との連携を踏まえた社会的な介入を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	子どもとの関係作り	乳幼児との遊び、児童思春期の子どもとの会話について学ぶ	柳生 一自
2			
3 }	子どもの発達・神経発達症	子どもの発達の過程と神経発達症について学ぶ	柳生 一自
4			
5 }	子どもに行う発達検査・知能検査・性格検査	子どもに使われる発達検査、知能検査、性格検査などについて学ぶ	柳生 一自
6			
7 }	アセスメントを活かす関わり	子どものアセスメントを活かした心理療法について議論する	柳生 一自
8			
9 }	子どもと親への家族療法	子ども、親の共同面接を想定した家族療法を学ぶ	柳生 一自
10			
11 }	不登校と子どもの適応	不登校を呈した子どもの適応、ゴールについて学ぶ	柳生 一自
12			
13 }	子どもの権利を考える	孤立した子どものアドボカシーについて学ぶ	柳生 一自
14			
15	心理学と脳科学	心理学的、脳科学的観点から意識や認知について理解を深める	柳生 一自

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験 100%

【参考書】

子どもと家族への統合的心理療法 村瀬嘉代子著 金剛出版 2001年

【学修の準備】

予習は、配布資料をよく読み理解に努める。また、担当箇所の発表準備を行う。（80分）

復習は、講義の学習内容を確認して理解できない部分はチェックし、参考書で調べるあるいは担当教員に質問する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

医師、公認心理師